

震災遺構中浜小学校の入館実績と今後の取組の方向性について

震災遺構における保存整備の意義

宮城県南部に残る唯一の被災建築物である中浜小学校の校舎を「震災遺構」として、また校庭を「メモリアル広場」として整備し、9月26日に一般公開を開始しました。

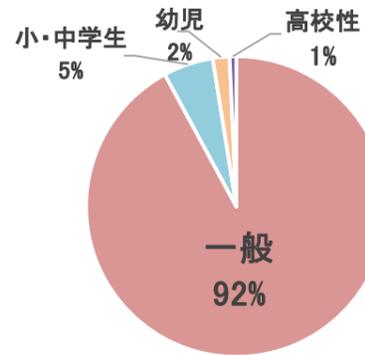
本施設は、東日本大震災の記憶と教訓を風化させることなく地域と後世に継承するとともに、防災・減災への意識向上や避難行動のあり方など、地域の防災力向上の鍵を握る町の貴重な地域資源です。

震災遺構の入館者の現状（10月12日現在）

●入館者の内訳

(単位：人)

	9月	10月	合計
一般	1,671	1,244	2,915
高校性	8	15	23
小・中学生	84	86	170
幼児	30	27	57
合計	1,793	1,372	3,165

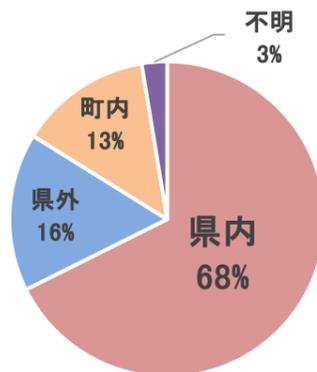


一般の入館者が大部分を占めている。

●入館者居住地の内訳

(単位：人)

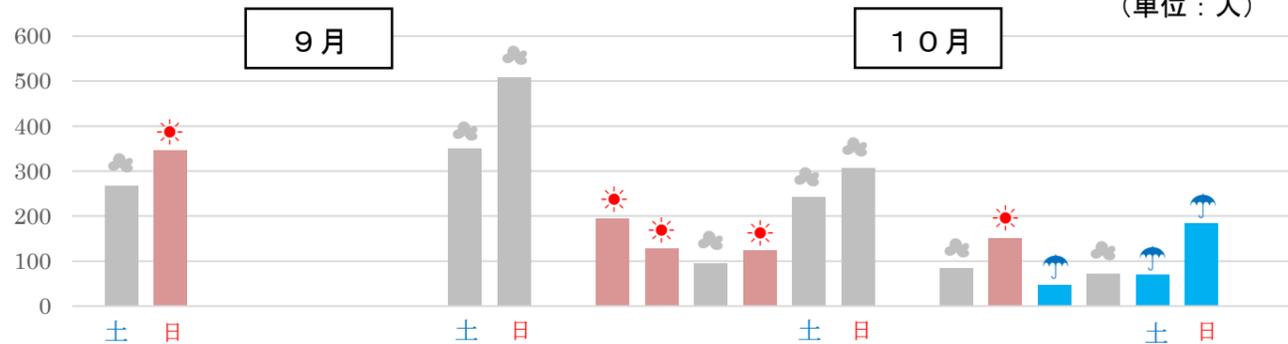
	9月	10月	合計
町内	354	75	429
県内	1,210	931	2,141
県外	171	342	513
不明	58	24	82
合計	1,793	1,372	3,165



町外（県外を含む）の入館者が84%を占めている。

●日別入館者数

(単位：人)



土・日の入館者が多く、雨天時は入館者が少ない。

今後の取組の方向性

「防災教育」「震災伝承」「情報発信」「交流連携」という4つの観点を取組のテーマとします。

事業を展開するにあたり、被災経験の有無に関わらず、次世代を担う子供たちに地域社会を越えた学びの場として提供するとともに、文化・観光施設等との連携や、タイムリーな広報活動に努めます。

また、県内外、そして国外を見据えた情報発信を行い、入館者の維持・増加を図ることなどにより、施設の維持管理が将来の過度な財政負担にならないよう、事業の継続性が図られるよう最優先に取り組みます。

防災教育

震災伝承

情報発信

交流・連携



1 防災教育

- ・町内小・中学校生を対象とした防災・減災教育への活用
- ・防災教育機関との連携、児童生徒・教職員の研修機会の提供
- ・中学校・高等学校の教育旅行、自治体や企業・団体等の防災・研修旅行等の誘致

2 震災伝承

- ・震災経験のない世代への記録・記憶の継承活動
- ・「やまもと語りべの会」との連携による広域的な伝承活動

3 情報発信

- ・施設のオンライン見学
- ・旅行会社への情報発信（PR）、新聞やTV等を通じた広報活動

4 交流・連携

- ・町内の文化施設・観光施設（夢いちごの郷・茶室・ひだまりホール・資料館等）との連携
- ・「3.11伝承ロード」との連携等